

751
41

事変下に海軍
軍事普及部発行
記念日を迎へて



0057769-000

751-41

事変下に海軍記念日を迎へて

海軍省海軍軍事普及部・編

海軍省海軍軍事普及部

昭13

AJG

151

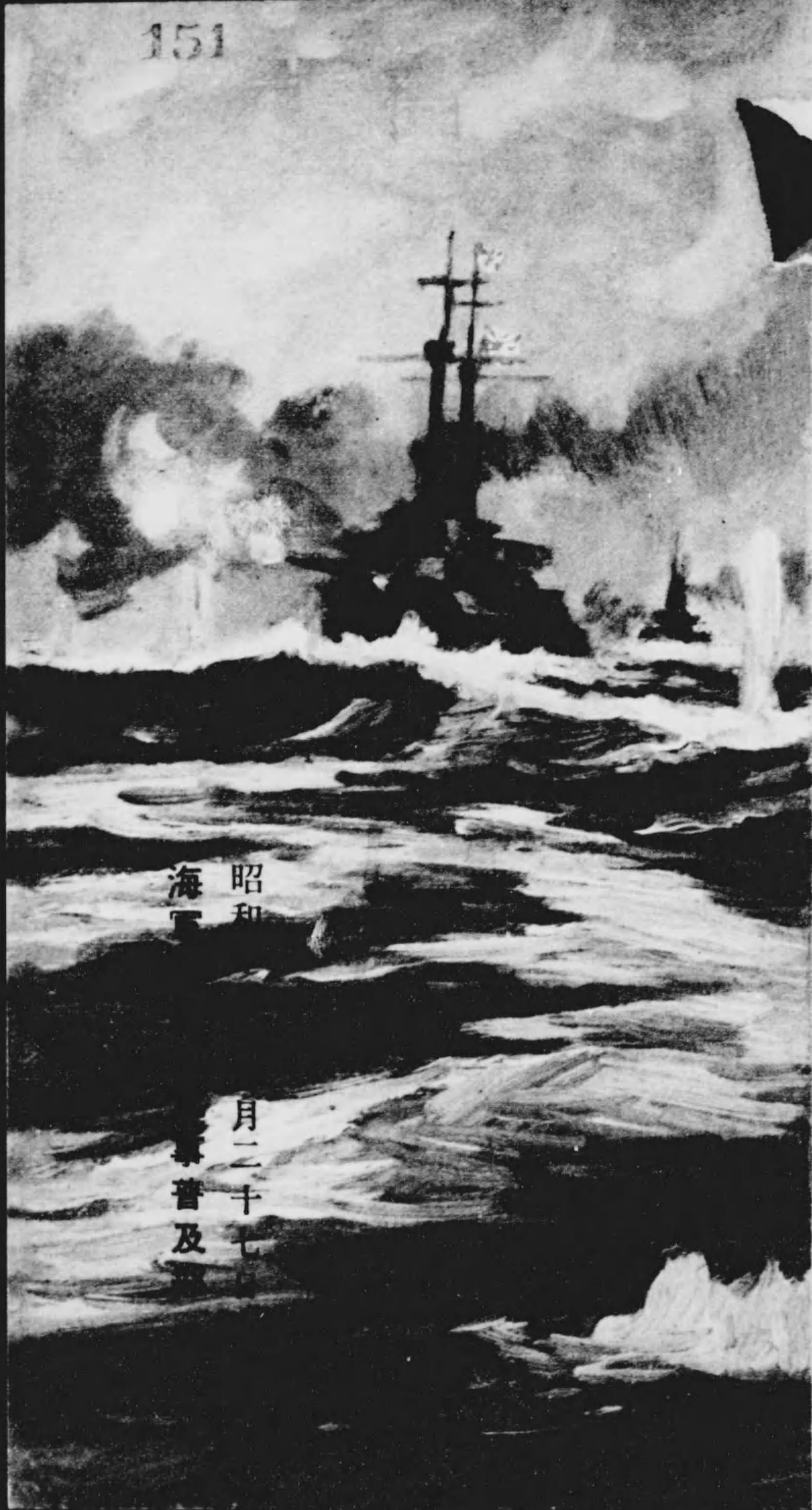
751

X
41

事變下に海軍記念日を迎へて

昭和
海軍

二月二十七日
普及





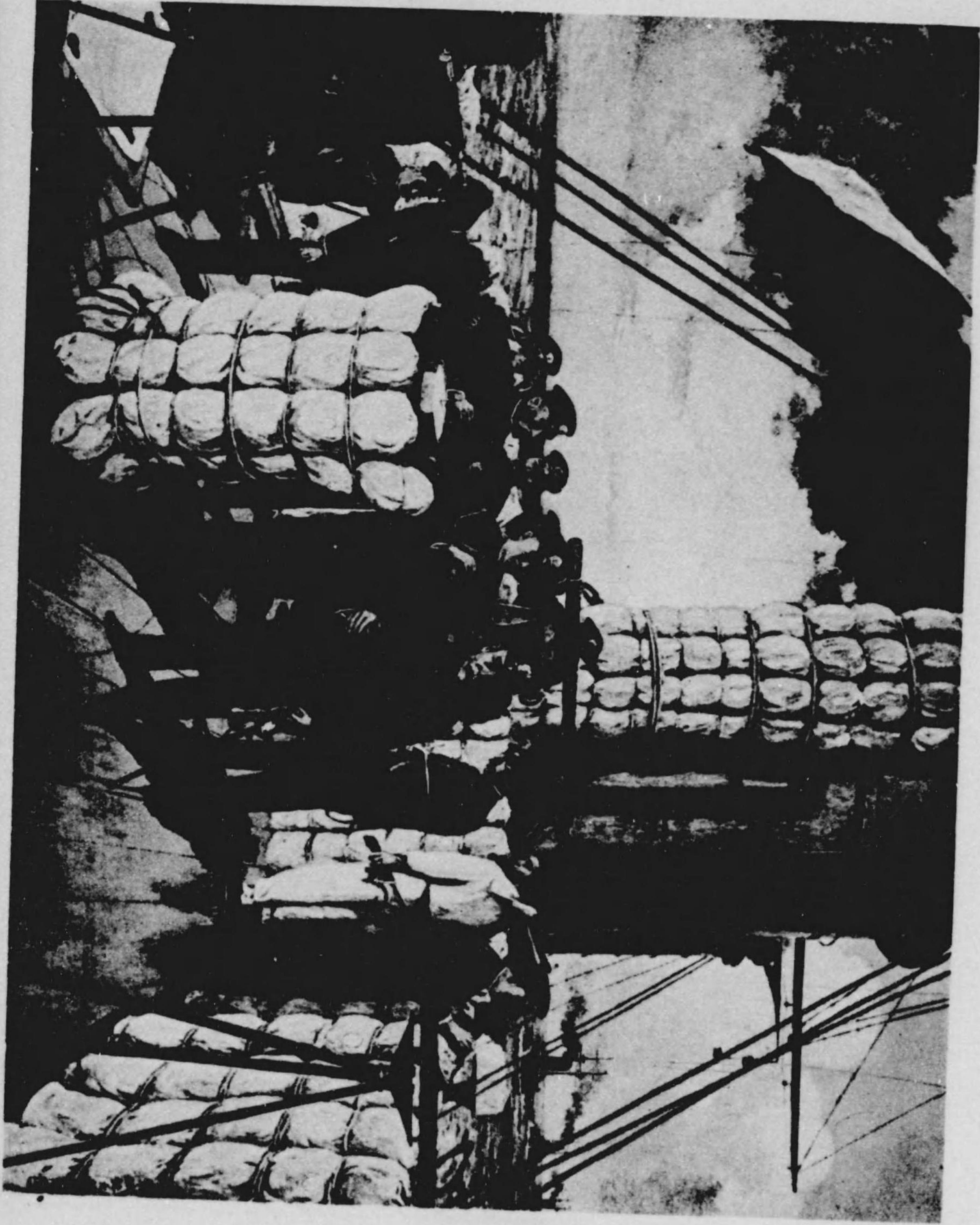
昭和五年四月二十九日撮影

東郷元帥

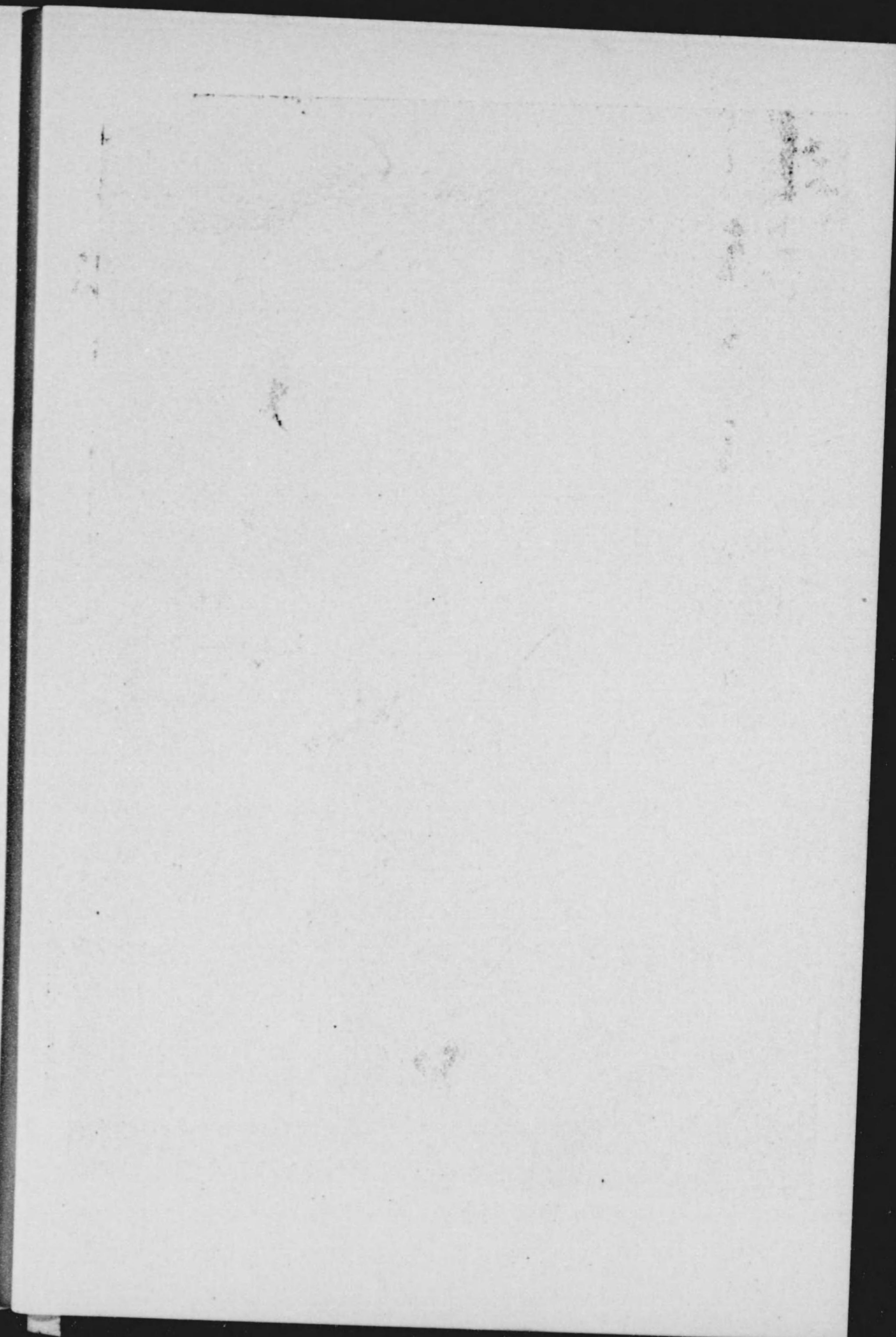


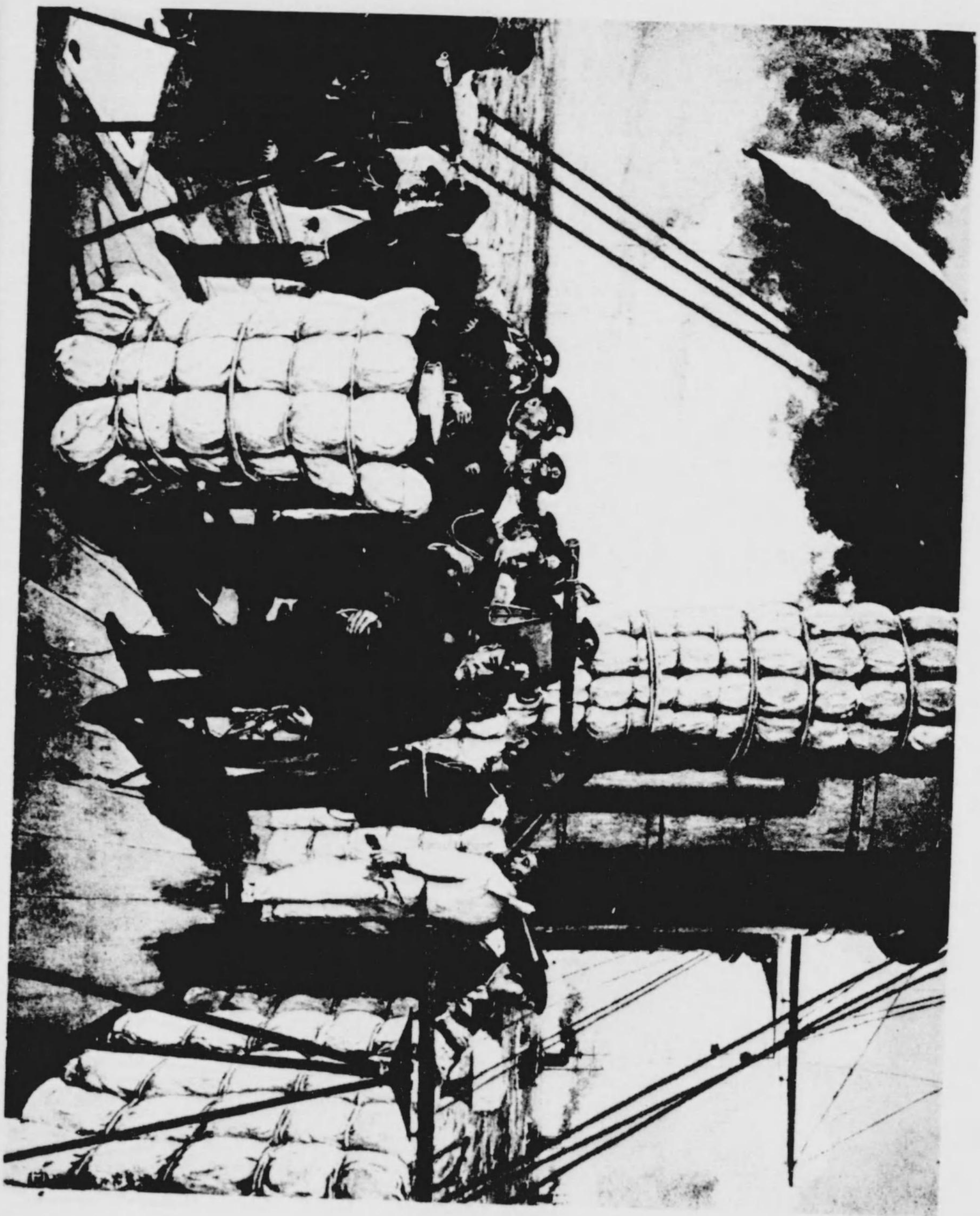
昭和五年四月二十九日撮影

東郷元帥

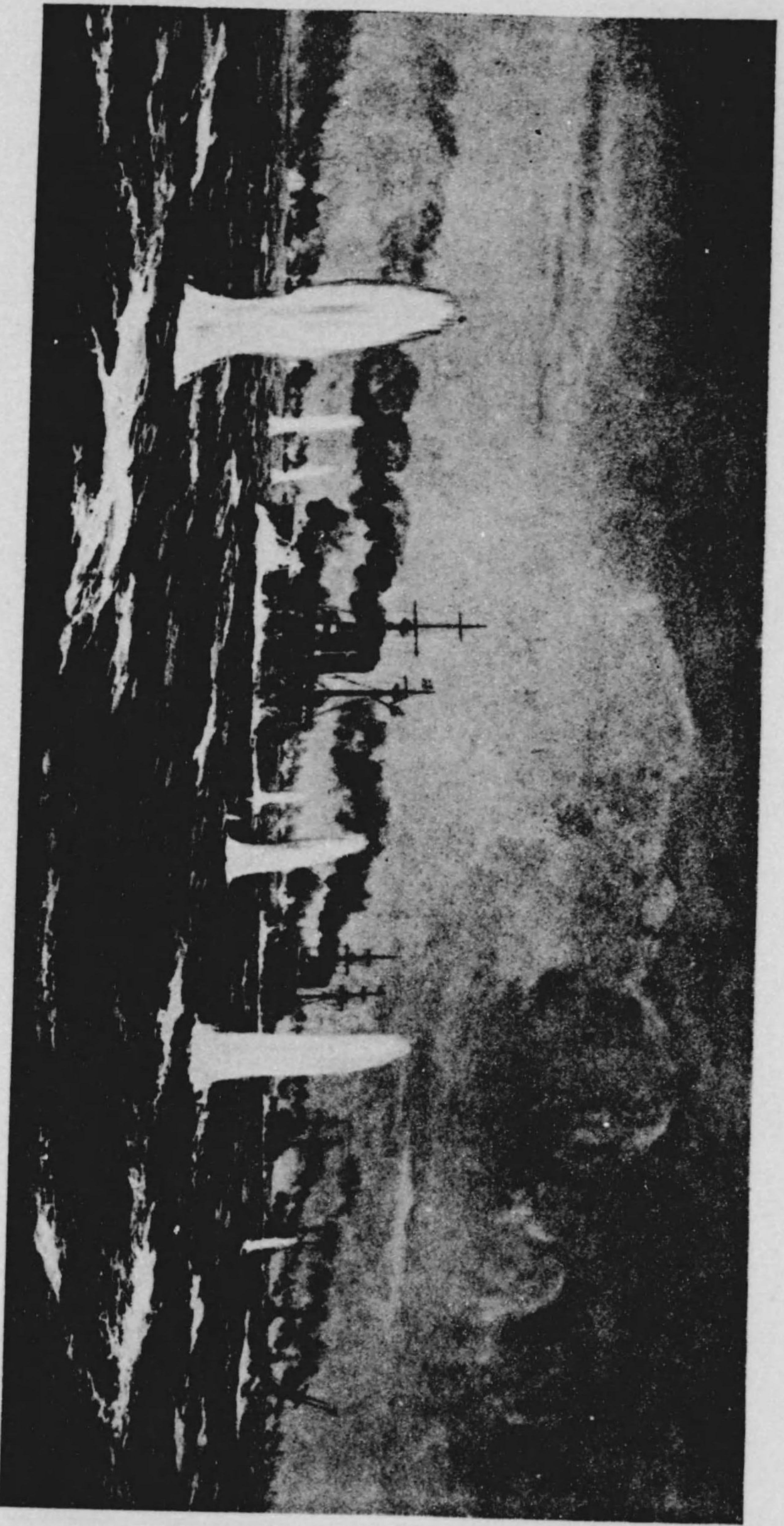


日本海々戰直前ニ於ケル三笠艦橋



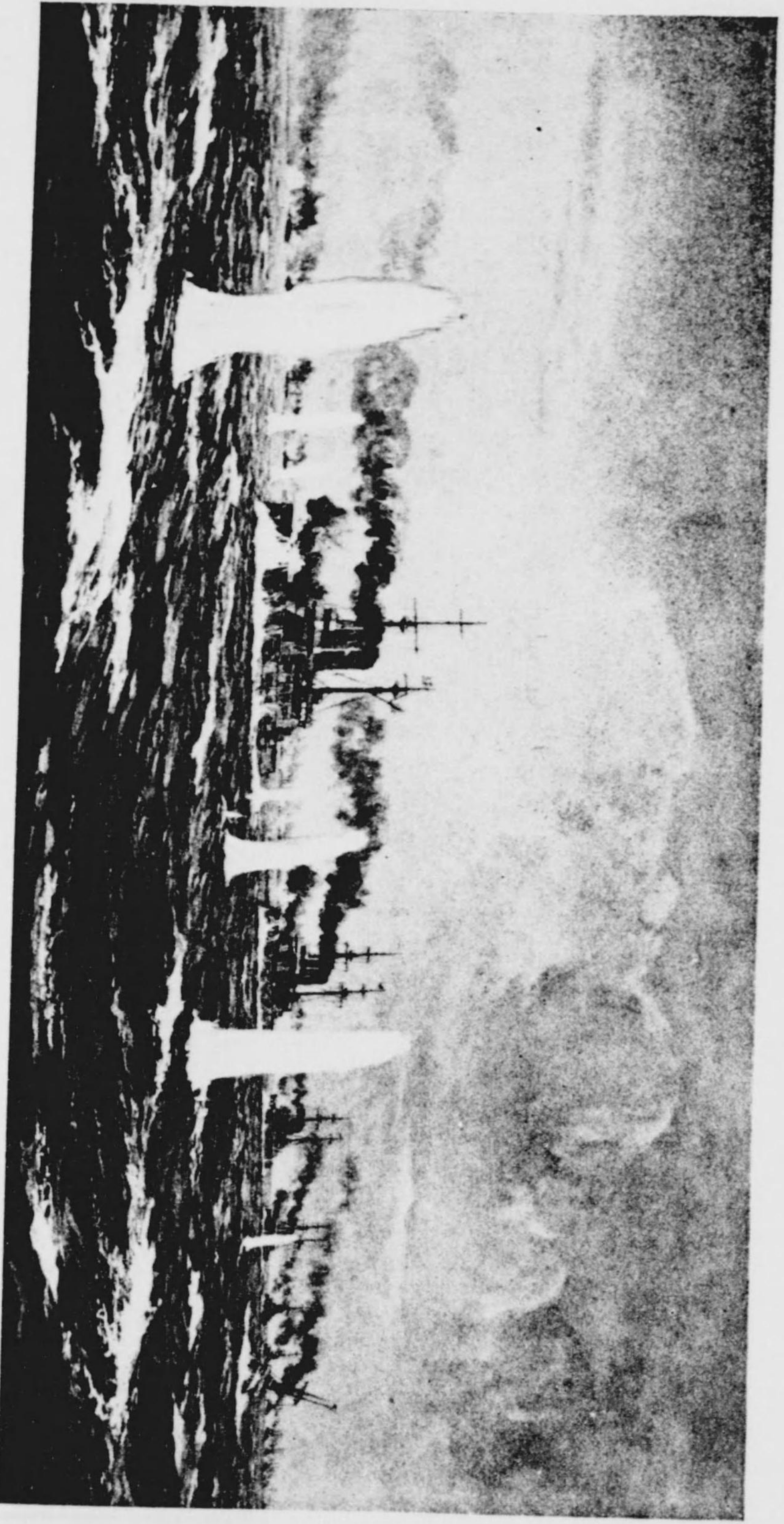


日本海々戰直前ニ於ケル三等艦橋



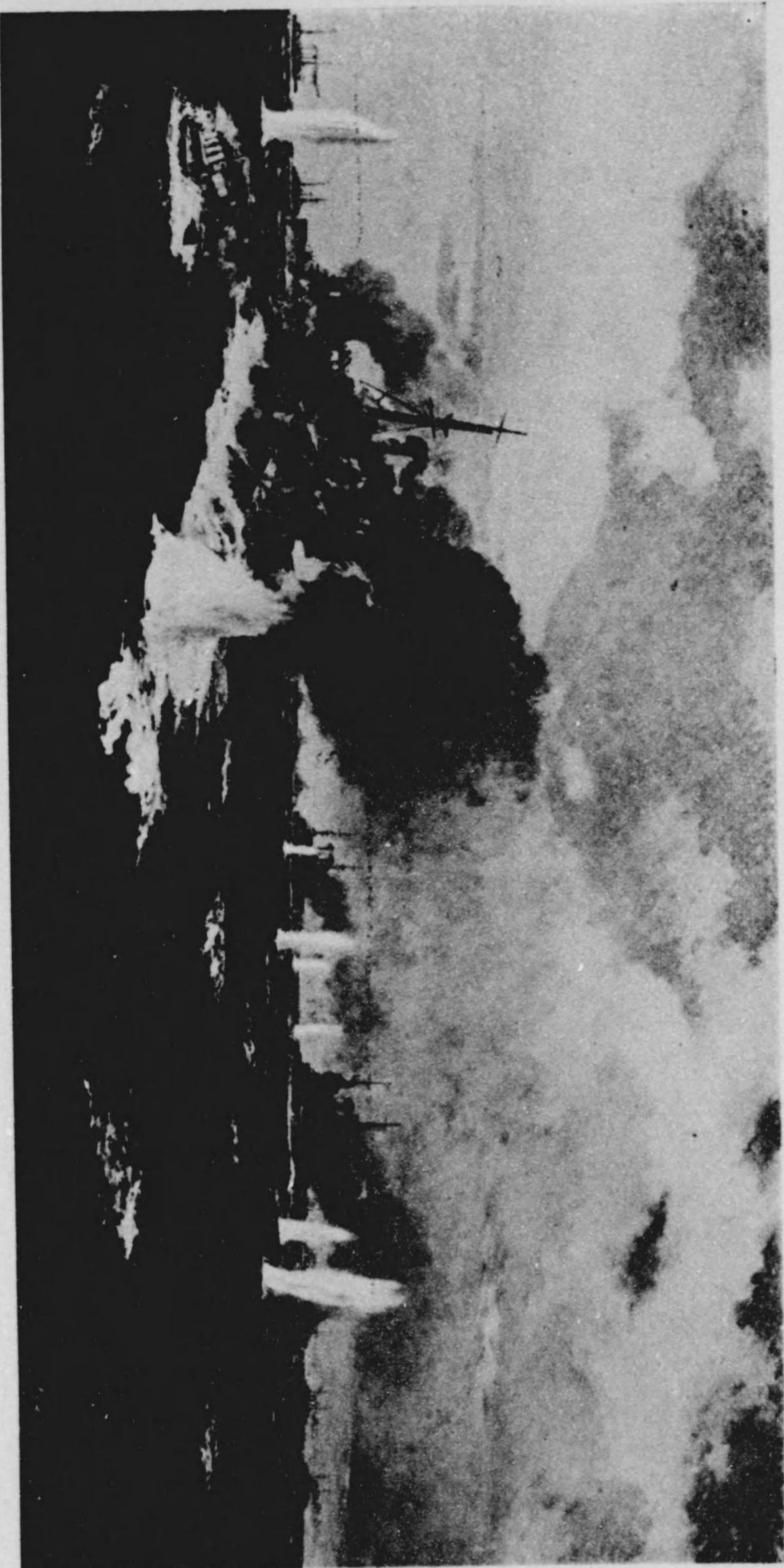
戰々海本日

況戰ノ時戰艦頃分十四時二後午日七十二月五年八十三治明

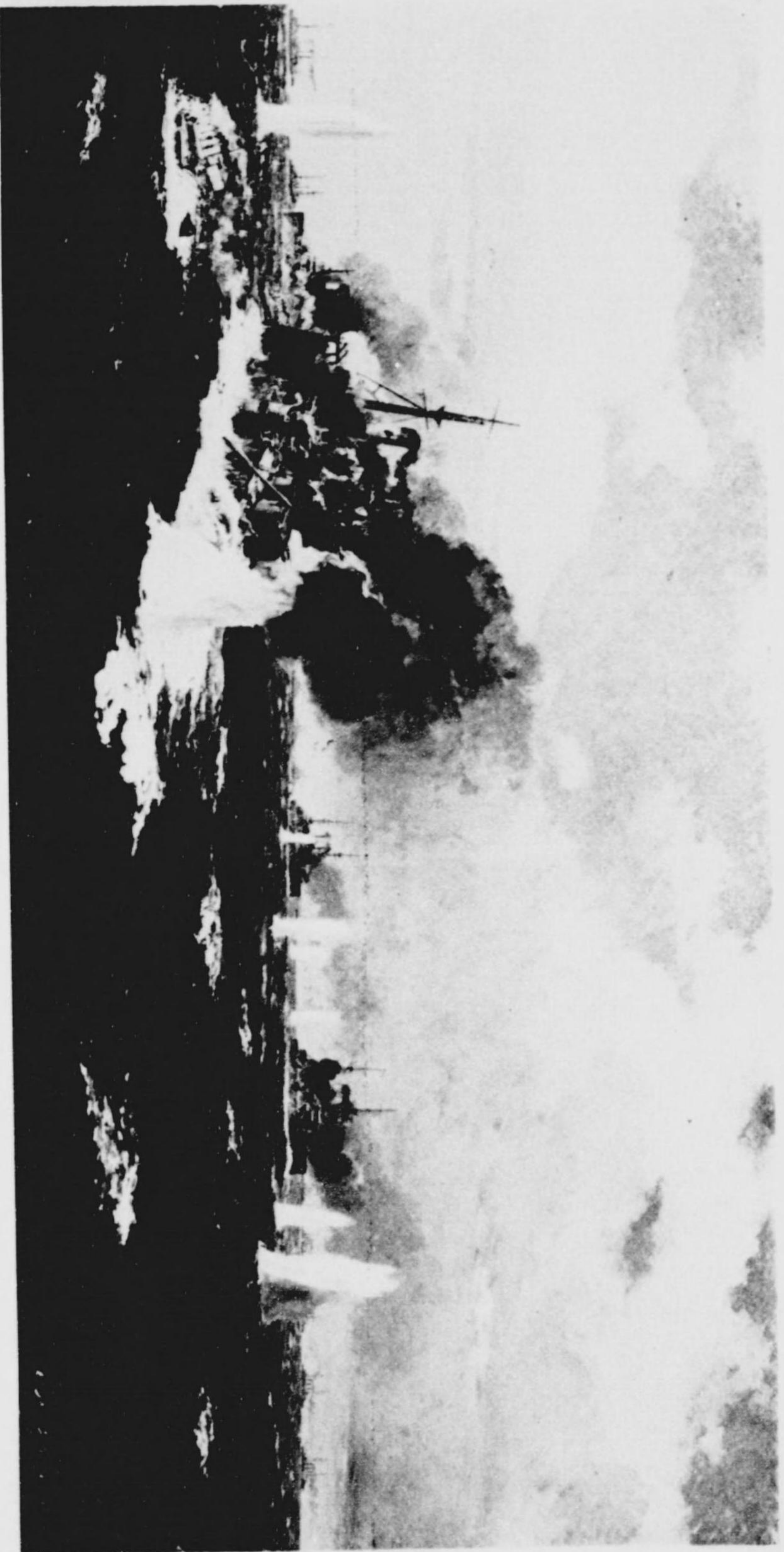


戰々海本日

況戰ノ時戰艦頃分十四時二後午日七十二月五年八十三治明

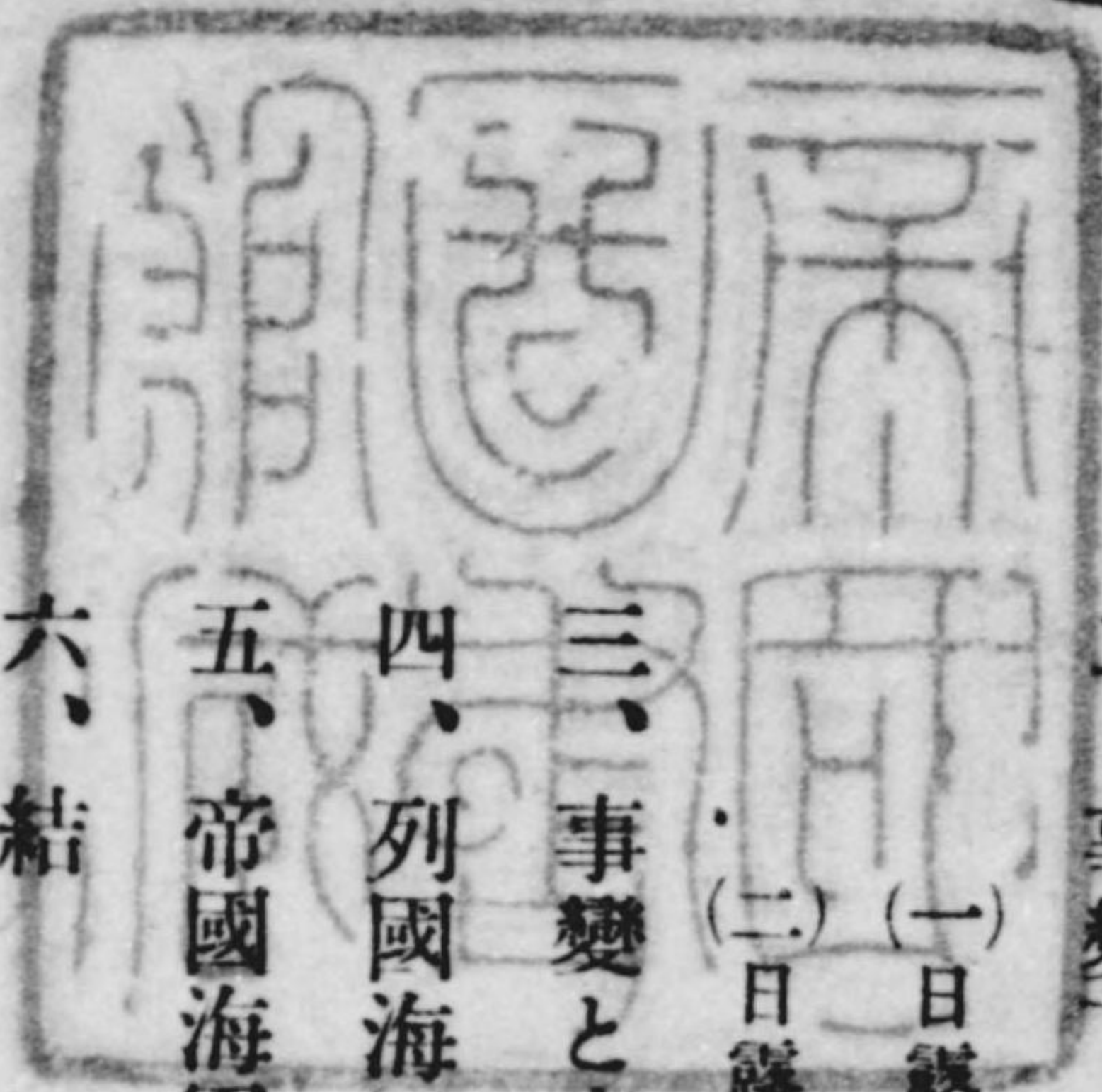


日 本 海 々 戰
明治三十八年十二月七日午後三時過戰況



戰々海本日
況戰ノ過時三後午日七十三月五年八十三治明

751
41



目次

- 一、緒言…… (一)
- 二、事變下に日露戦争を偲ぶ…… (四)
 - (一) 日露戦争と今次事變との關聯…… (四)
 - (二) 日露戦争大捷の原因…… (七)
- 三、事變と帝國海軍…… (二)
- 四、列國海軍軍備の情勢…… (一五)
- 五、帝國海軍軍備充實の急務…… (三〇)
- 六、結言…… (三三)

附 表 (列國海軍現有勢力表)
海軍記念日の歌

(一) (四) (四) (七) (二) (一五) (三〇) (三三)



165
11



海軍記念日の本
（海軍部軍用教育課）

目次



一、緒言

「皇國ノ興廢此一戦ニ在リ各員一層奮勵努力セヨ。」とは明治三十八年五月二十七日午後一時五十五分我が聯合艦隊旗艦三笠の檣頭高く翻つた信號であるが、艦隊の將兵之を仰いで意氣正に天を衝き、敵の「バルチック」艦隊を朝鮮海峡に遂撃し、奮戦數日、遂に之を殲滅して、未曾有の戦果を收め、皇國の武威を中外に宣揚した。

爾來幾星霜、我等は此の五月二十七日を迎ふる毎に、光輝ある曠古の戦勝を記念して以て邦家の前途を祝福し、其の發展を無窮に期待して來たのであるが、今日圖らずも其の第三十三回海軍記念日を支那事變下に迎ふるに當り轉た感慨無量なるものがある。

昨年七月、隣邦支那の飽くなき暴虐に敢然として立ち、彼等の覺醒と東亞永遠の平和の爲に膺懲の師を進めてより茲に十閱月、戦局は遂に全支に波及して、陸に海に空に皇軍將兵の向ふ處連戦連勝、客冬遂に首都南京を陥れ、今や北支も江南も草木の靡くが如く、皇風に均霑するに至つた。

然るに頑迷なる支那國民政府は、依然として、何等反省の氣配を示さざるのみならず、却つて或は共產軍と結托を固うし、或は歐米の支援を盲信し、内其の民生の窮迫を顧みることなく、外只管成算なき長期抗日を呼號しつゝあるを以て、戦局の前途は尙ほ遼遠なるを覺ゆるのである。

我等は此の暴戻なる國民政府に徹底的の膺懲を加へ、一日も速かに東亞永遠の平和を確立し、以て出師の目的を貫徹せねばならぬのであるが、固より單に武力戦のみを以てしては、之を實現することが困難であつて、眞

に國家總動員の態勢を以て愈々舉國一致、堅忍持久、最善の努力を以て之に對處せねばならぬ。

尙ほ茲に看過すべからざることとは、支那事變に伴ふ現下の國際情勢である。抑々事變を繞る列強の動向竝に其の軍備擴張の趨勢は、帝國に執り眞に重大なる關心事であつて、之が事變と緊密なる關聯を有することは勿論、事變自體の解決に將又事變後に來るべき事態に對しても甚大なる影響を與ふるものであるから、此等の情勢に對しても常に深甚なる注意を拂ひ適切なる方策を講じて萬遺憾なきを期せねばならぬ。

日露戦争以來幾多の難關に逢着し、特に滿洲事變以來は一層強き外力の重壓を受けて來たのに拘らず、常に此等を押し切つて勇往邁進し、國運は發展伸張の一路を辿つて來たのであるが、茲に支那事變てふ一大試鍊に當

面したのであつて、今こそ我等一億の同胞が斷乎正義の大旗の下に、舉國一致歩武堂々と東亞問題の徹底的解決の爲に一層奮勵努力すべき秋と確信する。斯くてこそ我等は先人の遺業に應へ、其の赫々たる成跡を更に一層光輝あるものたらしめ得ることゝなるのである。

茲に第三十三回の海軍記念日を迎ふるに當り、我等は過ぎし日の大捷の跡を偲び新なる感懷を以て今日の時局に對し、眞に斷乎たる決意を固むべきではあるまいか。

一、事變下に日露戦争を偲ぶ

(一) 日露戦争と今次事變との關聯

顧みれば十六世紀以來露西亞帝國は東洋侵略の政策を執り、清國に向つ

て凡ゆる威嚇恫喝を以て臨み、着々として西比利亞、沿海州を蠶食し、曩に帝國が清國の暴戻を碎いて樹立せんとした東洋平和の基礎を強壓的に破壊し、幾多將兵の尊き血を注いだ遼東半島を支那に還附して間もなく、彼は早くも旅順に其の太平洋艦隊の根據地を建設し、次で明治三十三年の北清事變に乗じて大軍を滿洲に進め、其の先鋒は長驅朝鮮に侵入し、東洋の平和は將に暴露の脚下に蹂躪せられんとした。

帝國は茲に再び重大なる國難に際會し、當時國力に於ても亦陸海軍の勢力に於ても遙かに懸絶せる大露西亞帝國を向ふに廻して、東洋平和の爲決然膺懲の聖戦を起すの已むなきに立至つた。

我が舉國一致の赤誠の進る處、陸に海に敵の大軍を撃破して赫々たる戦捷を收め、且帝國は一躍して世界一等國の班に列するに至つたが、爾來我

が隆々たる國運の發展は、日清戦争後より急激に極東に侵入しつゝあつた英國始め關係列強の利害と衝突するに至り、茲に従來の好意的態度を一變して嫉視反感の念を醸成し、特に世界大戰後列國の視聽極東に集中せらるるや、此の傾向は益々露骨となり、事毎に抑止牽制の策を弄するに至つた。

此の間支那の民族意識漸次發達するにつれ、其の萌芽は排外思想となつて現れ、蔣介石は巧に之を利用して抗日思想を煽り、支那の統一と經濟建設を策すると共に、内心我が帝國の發展を喜ばざる列國の支援と歡心とを獲得せんとし此の間漸次毒牙を逞しうして來た。

一方又蘇聯邦の世界赤化政策は、陰に國際共產黨を操つて支那の抗日勢力の中に潛入し、東亞の安定勢力として且は防共の堅陣を張れる我が帝國に對し拮抗するに至つた。國民政府は斯かる複雑なる情勢をば支那在來の

筆法たる以夷制夷の術策に利用し、一路抗日政策の確立に邁進したのであつて、今次事變の原因は其の由來する處、此の抗日政策に依ること勿論であるが、尙ほ其の背後に列強の極東政策が躍つて之を助長した事も亦否むべからざる所である。即ち歴史的意義に於ては日清日露の兩戦役にも相關聯する所多大であつて其の根柢の甚だ深きを覺ゆるのである。

(二) 日露戦争大捷の原因

日露戦争の全期を通じて大捷の原因を回顧するに、先づ第一に擧ぐべきは、舉國一致の燃ゆるが如き對敵觀念と赤誠奉公の信念である。

日清戦争後の三國干渉以來、帝國の上下は露國の野望を明かに看破して、將來必ずや此の遺恨を晴らさざるべからざるを痛感し、「臥薪嘗膽」の

標語は期せずして國民の聲となり、三尺の童子も亦「天に代りて不義を打つ。」と叫び、學界の長老より寒村の老媪に至る迄、四千萬の同胞打つて一丸となり、屍を滿洲の曠野に暴し骨を渤海の荒波に投ぜんとてふ意氣込を以て、國を舉げて對露準備の充實を強調し、官民協力國力の増進と軍備の充實に全力を傾注したのであつた。

軍備の充實は陸海軍共に併び進められたが、今海軍に就て其の一端を示すならば、明治二十九年には十年計畫を樹て、經費二億一千三百萬圓を以て海軍の大擴張を斷行し、戰艦六隻、裝甲巡洋艦六隻を基幹とする所謂六六艦隊の新軍備の整備にかゝり、更に同三十六年以降十一年間に經費約一億圓を以て戰艦三隻、裝甲巡洋艦三隻、巡洋艦二隻の建造が協賛されたが、同年末に至り情況の逼迫に鑑み、伊太利で建造中の「アルゼンチン」の裝

甲巡洋艦二隻を急遽購入し、開戦直前艦隊に編入した。之が日進及春日である。

斯くて我が海軍力は露國の黒海艦隊を除いた勢力に比べて、其の總噸數に於て三十二萬噸（極東及バルチック海に分在す）に對する二十四萬噸であつたが、我は新銳の均勢艦隊を主力としたものであり、更に舉國一致の後援は直に全海軍に反映して、將兵の士氣及其の術力に於ては斷然優れたところがあり、日夜汲々として作戰を練り、所謂百發百中の砲一門は百發一中の砲百門に對抗すてふ信條の下に、必勝の信念を以て眞に血の出る様な猛訓練を續行した。之實に開戦劈頭敵東洋艦隊の虛を衝いて先制の利を占め、爾來敵艦隊の行動を封じて遂に之を擊滅し、其の「バルチック」艦隊の來授するや、日本海の一戦に依つて前古未曾有の大捷を得、延いて日露戰爭

の大勢を決するに至つた所以である。

當時露國に於ては、戦争の原因が霸道に基づく不純のものであつた爲、國民一般戦争目的遂行に確乎たる信念無く、官民の歩調も整はずして國內には革命反亂さへ蜂起するに至り、「バルチック」艦隊が一萬五千哩を踏破して東洋に回航したことは壯とするも、最後の場面に於て日本艦隊と決戦せんとする覺悟は何處にも求むべくもなく、戦を避けて浦鹽に遁入せんとする事をのみ念願した結果は、九仞の功を一簣に缺いて、千歳敗虜の汚名を留むるに至つた。

斯く彼我の情勢を對比して來ると、勝敗の數、戦はずして已に定まれるものあるを覺ゆるのである。

三、事變と帝國海軍

日本海上強敵を撃滅して、千古不磨の榮冠を贏ち得た帝國海軍は、戦後國力の充實と國際的地位の高まるに従ひ、益々其の使命の重大なるに鑑み、東郷大將が明治三十八年十二月聯合艦隊解散の際麾下一般に訓示せられたる「勝つて兜の緒を締めよ。」との教訓をよく守り、常に待つあるの備を堅持し、衆寡を意とせず必勝撃滅の精神に洋溢して、克く時勢の進運に従ひ、一意海軍軍備の充實に努め國防の安全を確保し來つた。

今次事變起るや此の傳統の美華は到る所に溢れ、劈頭先づ上海陸戦隊は北四川路の一角に聳立せる本部の樓上から下された「全軍警戒戦闘を開始せよ。」との命令に、全員勇躍共同租界の周圍に蝟集せる十數倍の敵の猛攻

撃を敢然として撃退し、眞に「最後の一兵まで。」と悲壯なる決意を以て殊死奮戦した。又旗艦出雲は黄浦江内に留まり、常に至近の距離に敵を控へ砲爆弾の集中を受けつゝも、艦隊司令長官自ら陣頭に立ち全軍作戦の指導に當つた事は、宛も日本海海戦に於て旗艦三笠が我が主力部隊の先登に立ち、敵の集弾下に奮戦した状況を髣髴たらしむるものがある。

海軍航空隊が史上空前の偉勳を収めつゝあるのは、飛行機其のものも優れては居るがそれよりも其の整備の功と共に、航空隊將兵が常に情況千變萬化する海上作戦に於て、風雨を物ともせず敵艦隊を搜索撃滅するの自信に燃え、實力を練磨完成した賜であり、殊に此の道程には幾多涙ぐましい努力と犠牲が積まれてゐることを忘れてはならない。又江上艦艇が常に至近の距離に迫る敵と奮戦し、陸上作戦の進捗や水路の啓開等に多大の貢獻

をなしつゝある事は、南山・旅順の攻撃に、機雷等の危険大なる海面を突破して陸戦に協力した先輩の偉業を思はしむるものがあり、支那船舶交通遮断部隊が幾々二千數百哩の廣漠たる海面に、寒暑怒濤と戦ひつゝ、黙々として重大なる任務に服しつゝあるは、旅順の封鎖や其の他海上哨戒等に、先輩が辛酸を嘗めた幾多尊き努力の繼承である。

陸軍との協同に於ては、或は出征部隊の輸送援護に、敵前上陸に、或は陸上作戦の進展に、到る所美しい實を結び、克く作戦の目的を達成しつゝ、海陸協同の活模範を全世界に示してゐる。

最後に特筆すべきは、我が艦隊が優勢なる實力を備へ、儼然西太平洋に無言の威力を整へて、國際聯盟・九箇國會議の策動や、第三國の干涉を毅然として封じ、陸軍の前線部隊をして何等後顧の憂なく、當面の作戦に全

力を傾注せしめつゝある事柄であつて、海上權掌握の重大性を如實に物語るものである。

顧みれば、日本海海戦に於ける我が決定的勝利に依つて、東洋の制海權は全く我に歸し、陸海軍の戦果も茲に確保せられ、我が戦争目的は完全に達成さるゝに至つたのであるが、今次事變に於ても、制海權掌握は直接出師目的達成上絶対必要なるのみならず、時局の拾收に多大の意義を有する事は、日露戦争の場合に於けるよりも更に著しきものあるを思はねばならない。

海軍としては萬難を克服し今後益々有效適切な各般の方策を講じて戦果を擴張し、以て出師の目的達成を期してゐる次第である。

四、列國海軍軍備の情勢

東亞の情勢は支那事變の勃發に依つて重大なる事態と化し、事變を繞る英佛蘇等の國民政府に對する援助的態度や、蘇聯邦の赤化工作等は一層此の間の事態を紛糾せしめつゝあるが、帝國は東亞安定の爲敢然として奮闘しつゝある。

一方歐洲方面の不安は近年頓に増大しつゝあつて、現に「エチオピア」問題・西班牙問題・地中海問題・埃國問題・「チエツコ」問題等の政治問題相次いで起りたるのみならず、更に「フアツシヨ」主義・共產主義・自由主義等の思想問題之に介入して愈々事態を複雑多岐ならしめ、其の前途容易に逆睹し得べからざるものがある。

而して此の情勢中に流れつゝある重大なる動向は、各國共不安なる國際情勢に對處することを目途とするもの、様であるが、從來提唱せられたる集團的安全保障に依頼することなく、其の國防の安全を自ら確保するに足る軍備の充實を計りつゝあつて、特に最近英米兩國が海軍軍備の躍進的擴張に邁進しつゝある點である。然も之が帝國の國防上には勿論又事變の推移にも影響すること多大であり、此等の狀況に就き慎重に考察の要あるを以て、左に帝國の最も關係深き英米蘇の三國に就て其の概要を略述するこ

と、する。
(一) 米 國

米國の海軍政策が其の領土の防衛と對外政策の推進援護に任ずる爲「世界第一海軍」の建設維持にあるは數次の聲明に明かなる處で、昭和八年（一



九三三年）現大統領「ルーズベルト」就任するや、華府及倫敦兩條約に許容された條約量限度全部の充實を以て目標と定め、先づ産業復興費から二億三千八百萬弗の緊急建艦費を割當て、三箇年に三十二隻十五萬噸餘の艦艇を建造するに決し、翌昭和九年（一九三四年）には「ヴァインソン」案が成立して、五箇年に約八億弗の經費を以て一〇二隻二十萬噸の建艦に着手する事になつた。

之により米國海軍は一九四二年迄に條約量全部が充實せられ、而も補助艦は全部艦齡内艦艇を以て充されることになつたが、本年度海軍豫算が成立すれば主力艦二隻、巡洋艦二隻、驅逐艦八隻、潜水艦六隻、其の他特務艦船を含む建艦案が全部容認せらるゝ事となり、既定計畫通所謂條約海軍が一九四二年迄に完成する豫定である。然るに本年一月二十八日「ルーズ

ヴェルト」大統領の所謂「国防教書」に伴ひ新「ヴァインソン」案が同國議會に上程されたが、此の案は總經費八億弗(約二十七億圓)の豫算を以て現在の海軍力を凡そ二割擴張しようとするのであつて其の内容は左の通りである。

艦種	隻數	排水量(噸)	合計隻數排水量	備考
主力艦	(三)	一〇五、〇〇〇	(四七隻)	括弧内ノ隻數ハ推定ニ基クモノデアル
航空母艦	(二)	三〇、〇〇〇		
巡洋艦	(八)	六八、七五四		
驅逐艦	(二五)	三八、〇〇〇		
潜水艦	(九)	一三、六五八		
驅逐母艦	五	四五、〇〇〇	一二隻	
潜水母艦	三	二七、〇〇〇		
大型水上機母艦	四	三三、二〇〇	一四五、二五〇噸	

艦種	隻數	排水量(噸)
小型水上機母艦	七	一一、五五〇
工作艦	三	二八、五〇〇
三、〇〇〇噸以下の特殊艦若干隻		
海軍飛行機	約一、〇〇〇機	(新規増加)

本案には完成時期を明示してなく、建艦の着手は今後年々議會に於て豫算を求めた上定まる事となるが、之が完成された暁には米國海軍力は艦艇約百五十萬噸(艦齡内)、海軍航空機約三千機を保有することになるものと見做されて居る。

此の大擴張案は一月三十一日から下院海軍委員會で審議されたが、其の

劈頭海軍作戰部長の「リー」大將は本案を辯護して、「最近英國と日本が尤大なる海軍力増加を企圖するに至つたので、米國海軍としても直に之に對應して勢力強化の必要に迫られた。」旨述べて居るが、帝國を對象とせることは留意すべき點である。

本案は種々審議の末、三月二十一日下院通過時には十一億二千餘萬弗に増額され、又新聞の報ずる所に依れば上院に於て更に本案經費が一億四千萬弗の追加を見て、結局十二億六千百萬弗（約四十三億圓）の巨額に上るべきものと觀測せられてゐる。其の増額の理由は「スワンソン」海相が「ヴインソン」案の一部擴充を要求し、主力艦に就ては原案の排水量三萬五千噸を四萬五千噸に、又航空母艦に就ては原案の一萬五千噸を二萬噸に夫々増大し、其の噸數増加に伴ふ費用が八千萬弗、又補助艦艇に就ては原案二

十二隻の外給油船四隻、掃海艇三隻、曳船二隻、測量艦一隻、敷設艦一隻、合計十一隻追加に伴ふ費用六千萬弗を要求した結果とされてゐる。

之に先ち「ハル」國務長官は「ウォルシュ」上院海軍委員會委員長に書翰を送つて、米國海軍の任務が單に自國を守るに在りと云ふ政策、所謂「ステイ・アット・ホーム・ポリシー」に反對し、世界の何處に於ても米國の權益を守るべきであること及び太平洋の政情に變化無き限り、彼の五・五・三の比率を維持する必要があることを強調し世界輿論に一大衝動を與へた。

以上に依つて米國海軍の急進的軍備擴張の趨勢を察知することが出来るが、此の大海軍の建設と共に太平洋方面に對する積極的政策を堅持し、其の艦隊を滿洲事變以來太平洋に集中し、其の他各種軍港根據地施設等も太平洋方面に重點を置き多大の經費を以て之が擴張整備に努め、殊に布哇眞

珠港は強大なる防備と前進根據地としての諸施設を完備し、又其の海軍演習は毎年加州「アラスカ」・布哇を結ぶ廣大なる海面で巨額の經費を以て徹底的に實施されてゐる。

更に又本國西岸及北は「アラスカ」・「アリウシヤン」、南は布哇・「ミツドウェー」其の他太平洋諸島を利用する航空根據地の設備が着々進められて居る事は、米國海軍存在の意義を窺知するに難くない。

又航空機の充實に就ても從來多大の努力を拂ひ、巨額の經費を投じ、急速なる擴張を行ひ、米國の主唱せる海軍作戰に於ける制空權の獲得を目途として居ることは容易に窺知せらる、が、最近太平洋諸島の歸屬問題の聲明と共に多大の關心を要する所である。

(二) 英國

滿洲事變前後から歐洲新興勢力の勃興及再軍備熱、「エチオピア」紛争等の苦き經驗に支配せられた英國が、所謂無條約時代に入れる昨昭和十二年から十五億磅（約二百五十五億圓）五ヶ年の國防計畫を樹て、急速海軍軍備の擴張に着手したことは既に述べた所であるが、本年に入り更に之に拍車を掛け、其の國防豫算三億四千萬磅（約六十億圓）で前年度より多きこと約六千五百萬磅（約十億圓餘）に上り、同國平時豫算としては未曾有の巨額に達してゐる。内海軍豫算は約一億二千七百萬磅（約二十一億餘圓）に上つて居る。

尙ほ現在建造中及本年度中に建造に着手豫定の艦船は左の通である。

艦種	建造中	本年度起工豫定
主力艦	五	二
巡洋艦	一七	大巡 四 小巡 三
航空母艦	五	一
驅逐艦	四一	三
潜水艦	二一	三
敷設艦		三
河川砲艦		二
驅逐母艦		一
潜水母艦		一
スループ其他	六〇	若干
合計	一六〇	約四〇

而して建艦通報拒否に關する帝國政府の回答を利用して、去る四月一日倫敦條約「エスカレーター」條項援用を決定し、本年起工の主力艦二隻は三萬五千噸を超過する大戦艦となる模様である。

英國の新艦建造は五箇年計畫の完成時期たる昭和十六年（一九四二年）頃迄に少くとも艦齡内艦船を以て百五十萬噸以上を保有し、艦齡超過艦を加ふれば二百萬噸に垂んとする大海軍を持つこととなり、尙ほ現在建造中の主力艦五隻と、近く起工豫定の五隻と、現有十五隻とを加へ數年後には主力艦二十五隻以上を擁することとなり、又空軍に於ても更に其の充實を計り、歐洲の最大空軍國に對抗して本土を防衛し得る大空軍を建設する外、艦隊附屬並に海外領土派遣の有力なる航空隊が擴張充實せらるることとなり、本年度豫算の如きも殆ど海軍豫算

と大差なき一億一千三百萬磅の巨費に上り昭和十四年(一九三九年)三月末迄に、海軍に於ては艦載機を四七八機に、空軍に於ては本國部隊を一七五〇機に、海外部隊を四一五機に増加する模様である。

次に注意を要する事は英國の極東に對する海軍政策である。世界大戰後日米海軍の躍進、日英同盟の破棄、華府軍縮條約の成立等に伴ひ漸次極東政策を重視し、逐年海軍兵力を増勢する一方、新嘉坡根據地の擴張及本國極東間各根據地の強化を圖り、尙ほ地中海に於ける伊太利海軍の勃興に備へて、「アフリカ」南端を迂回して極東進出の方策すら整備するものと觀測されて居る。

新嘉坡根據地は約二千萬磅の經費を以て大艦隊を維持するに足る大擴張を行つたもので、大船渠は既に完成し、去る二月十四日に竣工式を舉行し

た次第である。

現在東洋方面にある兵力は支那・東印度・濠洲・新西蘭・南阿等の艦隊に分れ、概ね

- 巡洋艦 一二隻
- 航空母艦 一隻
- 驅逐艦 一四隻
- 潜水母艦 一隻
- 潜水水母艦 一七隻
- 其他 三六隻

であるが逐次新造優秀なる艦艇を充當し、現在の五箇年國防計畫完成の暁には、極東方面に主力艦若干を基幹とする有力艦隊の配備を見る可能性あ

りとせられ、新嘉坡軍港完成と共に重要視すべき事項である。

(三) 蘇國海軍が從來の局地防守の態度を捨て、銳意大海軍の建設に努めつつあることは周知の事柄で、昨年末海軍人民委員部(海軍省)の創設は、建艦計畫の樹立と相俟つて、其の海軍政策の積極化を物語つて居る。而して高度の祕密軍備國なるが故に詳細は不明であるが、其の建艦計畫は概ね左の如きものと觀測せられて居る。

戰艦	二隻	三五、〇〇〇噸	一六吋砲九門
巡洋艦	八隻 (内一隻完成)	七、〇〇〇噸	七・二吋砲九門
碎氷艦	六隻 (内二隻精裝中)	一一、〇〇〇噸	四隻
潜水艦	約二十隻	八、三三〇噸	二隻

其他輕巡以下補助艦多數

更に注意を要することは、極東方面に對する潜水艦及航空兵力の増勢で、又浦鹽の外沿海州・「カムチャツカ」に迄根據地が出現しつゝ、あり、尙ほ北氷洋航路及航空路の開拓等が着々として進行しつゝあることである。

以上米・英・蘇海軍軍備擴張の情勢に就て陳べたが、尙ほ注意を要する點は、英・米兩國の海軍軍備が競争的建艦の事態に入らんとして居ることであつて、殊に帝國建艦通報拒否に關する回答に藉口して、愈々大艦建造に乗出さんとする意志を表明したるが如きは誠に遺憾とする所である。

尙ほ此等三國の海軍政策が、何れも極東に重點を置ける事も看過す可らざる所である。

五、帝國海軍軍備充實の急務

前述の如く事變を繞る國際情勢並に列國海軍軍備擴張の趨勢は、帝國に重大なる關係を有するものであるから、其の推移に就ては深甚なる注意を拂ひ、之に對應する適切なる處置を講ぜねばならぬことは勿論である。

抑、帝國海軍軍備は不脅威不侵略を基調とし、國防の安全を期し得る自主的軍備を目途として居ることは屢々聲明された通であるが、併しながら軍備は元來相對性を有するものであつて、其の内容は常に不變不動なるものではない。現に英・米兩國の大擴張計畫が略々完成すべき昭和十七年（一九四二年）前後には、兩國共總計約二百萬噸に垂んとする大勢力を保有することとなり、此の趨勢は畢竟する所各國の海軍軍備上重大なる影響を及ぼ

すものであつて、我が國としても之に對應し國防の安全を確保する爲、軍備を増強し或は既定計畫の内容に變更を要することあるべきは當然である。

此の軍備の充實たるや刻下の喫緊事であつて、之を遺憾なからしむることとは即ち國民政府を打倒して出師の目的を速かに達成し、又延いては事變後に來るべき事態に對處して遺憾なき礎石を形成する所以である。

萬一帝國軍備にして缺陷ある場合は、東亞の安定勢力たる帝國の地位を失墜し、更に帝國の發展は勿論、滿洲國の育成も、支那の指導開發も一片の夢と化すべきは想像するに難からざる所である。

尙ほ我が國の軍備の充實は、唯に形而上兵力量の保有のみに留らず同時に軍人精神の鍛鍊、術力の向上、艦船兵器の改善等を計るべきものであり、其の背景として舉國一致の支援と産業經濟力の伸張により、國力の増進を

圖るを必要とするは論を俟たざる所である。我等は日露戦争前尊敬すべき先輩が、臥薪嘗膽の苦艱を凌ぎつゝ、敢然として海軍力の充實に邁進し、之と同時に全海軍將兵不眠不休の努力により築き上げられた儼然たる威力が、彼の大捷を博せる所以を顧み、茲に確固たる信念を堅めて將來の國防上萬遺憾なきを期せねばならない。

六、結 言

今や支那事變は第二の段階に入り、之を繞る列國の動向また俄に端倪すべからず、殊に列強は現下の國際的不安に備ふる爲に一意海軍軍備の充實に邁進しつゝあるを思へば、正に一大國難と稱すべきである。

此の局に對處して克く時艱を克服すべき我等國民は、益々責務の重大なるを痛感する次第であるが、我等は今にして、彼の旅順の攻略に肝膽を碎きつゝ、遠來の「バルチック」艦隊の來襲に備へた先輩の苦衷と現下の國情とを思ひ比べ、外は第一線の軍容を整齊して、作戰目的の貫徹に邁進すると共に、内は舉國一致其の全能を發揮して時局の拾收に當り、更に國力の増進、軍備の充實に萬遺憾なきを期せねばならない。之實に現下の難局を突破して、國家を泰山の安きに置き、以て東亞永遠の平和を建設し、以て世界の平和に寄與する所以と確信する。

茲に榮ある海軍記念日に當り、重ねて日露戦争當時の我が國民の偉大なる業績を追懐すると共に、現事變下に於ける一億同胞の一層奮勵努力を切望して已まざる次第である。

(終)

(附表)

列國海軍現有勢力表 (昭和十三年四月一日現在)

(一) 既成艦中ニハ艦齡超過ノモノヲモ含ム
 (二) 但シ蘇ニ關スルモノハ不詳ナル點アリ

國名	艦種	既成		建造中	
		隻數	噸數	隻數	噸數
米	主力艦	一五	四六四、三〇〇	二	七〇、〇〇〇
	航空母艦	四	一〇〇、四〇〇	二	三四、六〇〇
	甲級巡洋艦	一七	一六一、二〇〇	一	一〇、〇〇〇
	乙級巡洋艦	一三	一〇〇、五〇〇	六	六〇、〇〇〇
	驅逐艦	二二五	二六三、〇〇五	三五	五四、三五〇
	潛水艦	八七	七八、六四〇	一五	二一、七三五
合計		三五一	一、一六八、〇四五	六〇	二一五、六八五

佛	英					
	主力艦	航空母艦	甲級巡洋艦	乙級巡洋艦	驅逐艦	潛水艦
	六	一	七	一二	七一	
	一三七、四四五	二二、一四六	七〇、〇〇〇	八四、五〇二	一二一、三九三	
	三	一	一	一	一三	
	九六、五〇〇			八、〇〇〇	一八、七八六	
	一五	六	一五	四四	一六〇	二九二
	四七四、七〇〇	一一五、三五〇	一四五、一二〇	二六六、三一〇	一九九、四六四	一、二五五、一六三
	五	五	一七	四一	一八	八六
	一七五、〇〇〇	一一四、〇〇〇	一二六、〇五〇	七二、〇二五	一八、四一五	五〇五、四九〇
	合計					

蘇						獨				
合	潛	驅	乙級	甲級	航空	主	合	潛	驅	乙級
計	水	逐	巡洋	巡洋	母	力	計	水	逐	巡洋
艦	艦	艦	艦	艦	艦	艦	艦	艦	艦	艦
一九四	一五七	二五	六	二	一	三	六四	三六	一七	六
二四二、一五九	八三、〇四九	三二、五一六	三二、七〇二	一六、〇六〇	七、六〇〇	七〇、二三二	一三二、〇三五	一二、四二四	二七、八一	三五、四〇〇
二七	二二	三	二	一	一	四	二五	五	二	二
四〇、六九〇	一七、六四〇	九、〇五〇	一四、〇〇〇	一	一	二二二、五五五	一三、〇〇〇	九、〇五五	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇

伊							潛			
甲	航空	主	合	潛	驅	乙級	甲級	航空	主	
級	母	力	計	水	逐	巡洋	巡洋	母	力	
巡洋	艦	艦	計	艦	艦	艦	艦	艦	艦	
五	五	五	二〇八	六六	一一〇	一九	九	四	一七三	七六
五六、四〇〇	四三五、八九四	五〇、六六二	一一〇、〇一〇	九六、八七六	八七、九九二	九〇、三五四	五〇八、七四三	七三、二五七	二二	五
三	二	四	七五	三一	二八	一二	四	二二	二二	五
三〇、〇〇〇	二二七、一〇五	二一、六五三	二九、四五二	三六、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	一二八、七七一	一五、四八五	一四〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇

海軍記念日の歌

Tempo di Marcia

海軍軍事普及部 作歌
海軍軍楽隊 作曲

わがくわい くのこうはいを
のいっせーんになひつつ
にっぼんかいしきうてきを
くーだきしづめてよろづよにく
にのいしーず
だめたるか
がやくけふのみ
わんびーよ

海軍記念日の歌

海軍軍事普及部 作歌
海軍軍楽隊 作曲

我皇國の興廢を

此一戦に擔ひつゝ

日本海上強敵を

碎き沈めて萬代に

國の礎定めたる

輝く今日の記念日よ。

尊き血をもものとせぬ

丈夫の忠烈に

祖宗の靈鎮めむと

我が大君の大勅

いただく胸の高鳴りに

響くも高し波の音。

明け行く海のはて遠く

輝き渡る日の御旗

船跡賑ふ綾波に

伸びゆく海の大日本

四方に八隅に建國の

高き理想を仰ぎつゝ。

九千萬の民こそぞり

歴史の巻に刻まれし

榮光高き思ひ出に

心の緒を締むる時

千載つねに大いなる

正義に奮へ大和魂。

751
E
41

新編日本歌

新編 日本歌
新編 日本歌

stretto ib tempo

A handwritten musical score consisting of eight staves. The notation includes treble clefs, a common time signature (C), and various musical notes such as quarter, eighth, and sixteenth notes, along with rests and accidentals. The handwriting is in ink and appears to be a personal or working manuscript. The paper shows signs of age and wear.



皇國興廢在此一戰
各員一員本高勵努力

Blank page with a small white rectangular mark on the left edge.